

第114回 北海道整形外科外傷研究会

平成18年 8月26日 札幌市教育文化会館
出席者 57名

主題：肘関節周囲外傷

会長 函館中央病院整形外科 多田 博

第114回北海道外傷研究会を開催して

2006年度は、医療界においては小泉改革に翻弄されたと言っても過言ではない。診療報酬の削減が最大であることは言うまでもないが、本格的に実害が表面化したスーパーローテイト制度である。地方の医師不足は加速し、相次ぐ産科、小児科病棟の閉鎖は社会的問題にもなっている。

我々整形外科医にとって一番大きいのは、リハビリテーションに関してで、2006年初頭に研修をうけなければリハビリ処方箋が出せないとの急な宣告で、札幌での講習のため、時間と費用を投じた先生も少数ではなかったであろう（勿論、講師の先生はもっと大変であったと思う）。さらに4月からはリハビリ日数の上限が決められて、特に慢性化した状態の患者が切り捨てられることになった。もう少しリハビリができれば、社会復帰が出来るような患者には、無償でリハビリを継続したり、消炎鎮痛処置でリハビリを行う等、あの手この手で継続しているのが実状ではないかと思われる。

愚痴はさておき、今回の研究会は兵庫医大の田中寿一教授を講師にお迎えして、**TJ screw system** についてお話をいただいた。開発の経緯から臨床応用の実例まで、ユーモアを交えた講演であったが、一番驚いたのは『**TJ**』が田中先生のお名前ではなく、**Tendon Junction** の略とのことであった。しかし、控えめな先生であるから、恐らく謙遜であとからこじつけたのであろうとは思いますが…。

主題は田中先生の講演に関してと思い『肘関節周囲外傷』とした。範囲を大きくして多くの演題が集まるようもくろんだが、関連する症例発表も含め5題と控えめで、その他一般演題も含め10題とやや寂しい演題数は、私自身の人望の薄さ

によるものかと思われたが，その分時間に余裕があり，活発な討論がなされそれなりに楽しい研究会であった．特に一般演題で浜口先生の大腿骨脛部骨折の発表では，日整会のガイドラインを中心にかなり盛り上がった討論がなされた．

その日の夜はすすきのの居酒屋で講師を囲む会があり，参加人数は10数名であったが，医療界，外傷界の話でまた盛り上がった．会長としてはここまでが私の役目で，やっと肩の荷が下りたという感じで，翌日の田中先生を交えてのゴルフは爽快そのものであった．最後に今回，質疑応答などで会を盛り上げていただいた参加者の皆様に深謝するとともに，今後の外傷研究会の発展を願いたい．